

第14回河川生態学術研究発表会 開催報告

河川・海岸グループ 研究員 伊藤将文

1. はじめに

第14回河川生態学術研究発表会は日本全国より約100名の学識者、行政関係者、コンサルタント等が参加し、平成23年11月17日(木)に発明会館ホール(東京都千代田区)で開催されました。

研究発表会は河川生態学術研究会及び応用生態工学会の共催により開催されました。「口頭発表」、「ポスター発表」、「総合討論」の3部構成よりなり、特に総合討論の部では、河川生態学術研究会の河川別研究グループ代表と応用生態工学会からのアドバイザー委員による活発な討論が行われました。

2. 河川生態学術研究会について

「河川生態学術研究会」は生態学と河川工学の研究者が共同で、生態学的な観点より河川を理解し、川のあるべき姿を探ることを目的に研究活動を行う研究団体です。この目的の達成に向けて『河川流域・河川構造の歴史的な変化に対する河川の応答を理解する』、『ハビタットを類型化し、その形成・維持機構、生態的機能を明らかにする』、『洪水や濁水などの河川が本来持つ攪乱などの自然のインパクト及び河道や流量の管理、物質の流入などの人為的インパクトの影響を明らかにする』など複数のテーマを設定し研究を進めています。

現在は十勝川、岩木川、千曲川、多摩川、五ヶ瀬川水系及び各河川の研究成果を総括して比較研究する総合研究グループを加えた6つのグループで活動しています。

3. 発表会の内容

○口頭発表

口頭発表においては、6つの研究グループより概要報告・研究発表を合わせて14の発表が行われました。

○ポスター発表

ポスターセッションでは、河川生態学術研究会の各河川研究グループより10の発表が行われました。中でも山梨大学の岩田智也准教授が発表された「岩木川水系の炭素輸送と水質形成過程」は、シジミの殻の炭素の起源をデータに基づいて明らかにしている点や、流域の炭素動態について、明確な事例研究となっている点などが高く評価されました。

○総合討論

口頭発表、ポスター発表を踏まえた総合討論にお

いては、『河川の物質循環と生態系との関連性』及び『人為的活動が生態系に及ぼす影響』をテーマに、活発な意見交換が行われました。

口頭発表題目

1. 河川総合研究グループ	
・ 概要報告	座長(島谷 幸宏 代表)
2. 岩木川研究グループ	
・ 概要報告	座長(佐々木 幹夫 代表)
・ 十三湖における土砂・物質動態と環境形成システム	望月 貴文 (国土交通省 国土技術政策総合研究所 環境研究部 研究官)
・ 岩木川下流域の河川敷におけるヨシ原の生態に対する人為的攪乱の影響	齋藤 宗勝(盛岡大学 栄養科学部 教授)
3. 千曲川研究グループ	
・ 概要報告	座長(中村 浩志 代表)
・ 千曲川における魚類調査の結果	中村 浩志(信州大学 教育学部 生態学研究室 教授)
・ 千曲川河道掘削工事による鳥類への影響の地域間比較	笠原 里恵 (東京大学大学院 農学生命科学研究科 生態環境調査室共同研究員)
4. 多摩川研究グループ	
・ 概要報告	座長(星野 義延 代表)
・ ニセアカシア林の食物網特性の解明	加賀谷 隆(東京大学大学院 農学生命科学研究科 助教)
・ カワラノギクの生態と保全活動	倉本 宣(明治大学 農学部 教授)
5. 五ヶ瀬川水系研究グループ	
・ 概要報告	座長(杉尾 哲 代表)
・ 氾濫原の植生環境変動及び流下堆積物に応答するほ乳動物の生息確率・行動予測システムに関する研究	岩本 俊孝(宮崎大学)
・ 五ヶ瀬川・北川感潮域におけるカニ類の生息環境と保全	伊豫岡 宏樹(福岡大学)
6. 十勝川研究グループ	
・ 河川景観ネットワークの連結性と時空間変化	座長(中村 太士 代表)
・ システムの脆弱性と頑強性の解明	



総合討論

4. おわりに

近年、自然再生・都市再生、景観は川づくりに取り組む際に欠くべからず重要な課題となっています。これらの課題に対する様々な科学的な知見を明らかにする研究として、河川生態学術研究会は、その役割の重要性を増すとともに、本発表会も各研究グループが一堂に会した討議の場、あるいは河川環境の保全・再生に関わる貴重な情報交換の場になることが期待されています。